第４学年１組　体育科学習指導案

令和８年１１月１２日（木）　第５校時　　校庭

在籍児童数　　男子８名　女子８名　合計１６名

秩父市立荒川東小学校　　教諭　　高橋大貴

１　単　元　名　「飛東隊ベースボール大合戦！　～勝利へ導く作戦で本陣をかけぬけろ～」

（ゲーム・ベースボール型ゲーム）

２　運動の特性

（１）一般的特性

〇バットでボールを打ったり、簡易グローブでボールを捕ったりするなど、道具を効果的に用いてボールを扱う楽しさを味わうことができる運動である。

〇攻撃面では、相手がいないところにボールを打つことで、多くの得点を取れるところに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

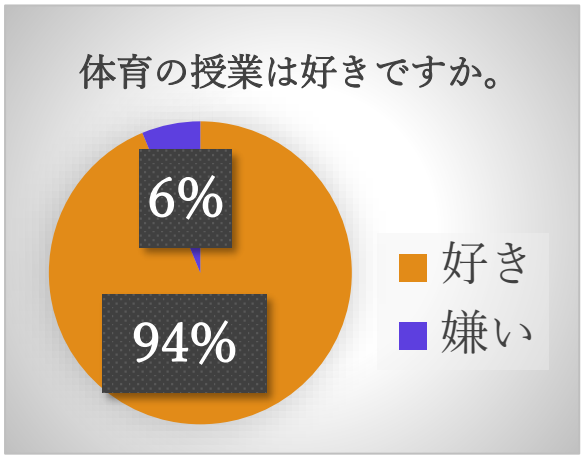
〇守備面では、チームで協力していかに失点を少なくできるかに楽しさや喜びを感じる運動である。

（２）児童から見た特性

ベースボール型ゲームの楽しさや喜びを感じる要因	ベースボール型ゲームを遠ざける要因
・思い切り打って遠くにボールを飛ばせたとき。 ・強い打球が打てたとき。 ・友達と協力して相手の得点を防ぐことができたとき。 ・チームで考えた作戦が成功したとき。 ・ゲームに勝つことができたとき。	・打つ、捕る、投げる等のボール操作がうまくできないとき。 ・ゲームで負けが続いたとき。 ・試合のルールやチームでの役割がわからず、何をすべきかわからないとき。 ・ボールにあまりさわれないとき。

３　児童の実態

アンケート項目と結果（主な理由）

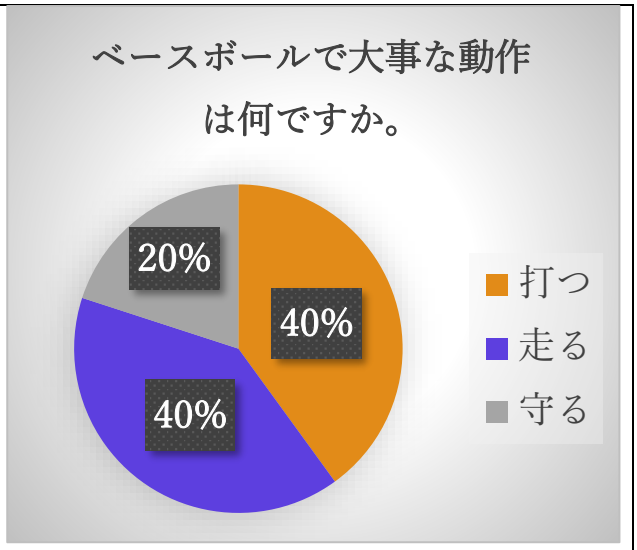


嫌いと答えた児童の理由

・単元によってできないものがあるから。

・運動は自由だけど、体育にはルールや制限があるから。



問：ティーボールとは何ですか。 ・ボールを棒の上に置くこと ・野球みたいな ・ボールを使う ・野球のピッチャーがいないバージョン ・チームでやるスポーツ ・ボールを使う	

（１）　知識及び技能

本学級の児童は、野球経験者が１人、ボール運動の経験者は６人と１６人学級の中では経験者が多い。しかし、ベースボール型に限っては経験者１人であり、ほとんどの児童がバットを使ってボールを打つティーボールは初めてである。事前にアンケート調査をしたところ、「打つ」「投げる」「捕る」「走る」などティーボールに必要な基本動作について触れている児童がいなかった。そこで後日、「打つ」「守る」「走る」この３つの動きで限定し、その中で大切だと思うものは何か再度アンケートを行った結果、「守る」に回答した児童の割合が２０％と少なかった。

（２）　思考力、判断力、表現力等

これまでの体育の授業では、個人の技能向上に向けて活動に取り組んでいる姿が見られた。高跳びなどの個人で行う活動では、高く跳べるように助走距離を工夫したり、歩幅を調節したりしていた。「ポートボール」の学習では、作戦タイムを作り、話し合う時間を設けた。「～さんが前回多く得点していたから、ボールが回らないようにしよう」「相手のいない場所に動いて！」などチームで点を取るために、考えながらアドバイスしている児童もいた。

しかし、どの学習でも、多くの児童が個人の活動で終わることが多かった。話し合いの場面では、決まった児童（主に技能Ａの児童）による一部の話し合いになることが多いため、自分の考えを積極的に他者に伝えることができる児童は少ない。

（３）　学びに向かう力、人間性等

本学級の児童は、運動をすることが大好きな児童が比較的多く、休み時間や朝の運動の時間を楽しみにしている児童が多い。休み時間には、ドッジボールやサッカーをして楽しんでいる姿が多く見られる。また、水泳学習の時間もみんなで声を掛け合いながら、楽しく行うことができた。その一方で、暑い、外に行くのが面倒などの理由から、外遊びに行きたがらない児童もいることから、運動の二極化が進んでいる。

児童の実態を把握するために行ったアンケートでは、体育が好きな児童は９４％、運動が好きな児童は１００％であった。これまでの学習でも、準備片付けを進んで行う姿や仲間に声をかけ合いながら取り組む姿が見られたことから、好意的な印象であることがわかる。

しかし、１学期に行った「リレー」「ポートボール」の学習では、勝敗を素直に受け入れることができず、友達に当たってしまったり、やる気を失ってしまったりと、友達と協力することを忘れ利己的な行動をとる児童も見られた。

４　教師の指導観

（１）　知識及び技能

ベースボール型ゲームの攻撃面では、相手がいないところにボールを打つことで、多くの得点を取れるところに面白さがある。また、守備面では、チームで協力して守備位置を変えたり、中継の仕方を工夫したりしながら失点を少なくできるところに面白さがある。本学級の児童は、攻撃面への意識が高く、その中でもいかに遠くに飛ばすかに重きを置いて授業に取り組む児童が多いと予想されるため、本単元では、攻撃と守備の技能をバランスよく高めていけるよう指導する。攻撃面では、ホームランダービー、連続バッティングを毎時間設定し、腕だけでなく腰を回すことで体全体を使ってバットを振ることができるよう指導する。守備面では、「捕る」「投げる」の動作は必要不可欠であるため、距離感や人数を変えたキャッチボールを行い、実践の感覚をつかませる。また、アウトゾーンまでボールをつなぐことを意識させるために、中継キャッチボールを取り入れ、捕球した位置から目的地まで仲間と連携してボールをつないで

いくことを重点的に指導する。
　また、レベルアップタイム（飛東隊修行）を設け、児童の技能に応じて使用するバットとボールを選択させながらバランスよく技能を高めることができるようにする。メインゲーム（大合戦）においても、児童の技能に応じて使用するバットを選択させながら試合を行い、技能の習得を目指す。

（２）　思考力、判断力、表現力等
　ベースボール型ゲームでは、技能で差が大きく開くことがあり、課題がチーム、個人で異なる場合もある。単元の特性として素早い状況判断が求められる。そのため、自分の課題を明確にしながら授業に臨めるよう、スモールステップで取り組めるようにする。また、単元の終わりには振り返りを毎回行い、児童が、「何ができて、何がまだできていないか」を判断し、言語化することで、次の学習に生かしていけるようにするとともに、児童の記述から教師が次時以降にフィードバックを行うことで、指導と評価の一体化につなげる。
　さらに、ベースボール型ゲームは、チームで行う特性があり、１人の動きだけで点が取れたり防げたりできるわけではない。しかし、実態調査で行ったアンケート結果からは、「守備」が大事だと答えた児童の割合が「打つ」「走る」よりも低かった。そのため、意図的に大合戦に向けてチーム（軍）で作戦を話し合ったり確認したりできる時間（軍議）を確保し、ホワイトボードを用いて立ち位置や動きを確認させることで、作戦を具現化する場面を保障する。これにより技能差に関わらず、全ての児童が自分の考えを他者に伝え合いながら、学び合うことができるようにする。

（３）　学びに向かう力、人間性等
　１学期に行った「リレー」「ポートボール」の学習で、一部の児童が勝敗を素直に受け入れることができず、友達に当たったり、やる気を失ったりしていた経験をふまえ、全児童が「運動が楽しい」「ティーボールが楽しい」と思えるような指導をする。
　そのために、ゲームにおけるルールやマナー、相手がいることで試合ができるということなど、相手を敬う気持ちについても指導する。勝敗に関わらず、試合が終わった後は「ノーサイド」を合言葉に、互いの頑張りを認め合い、勝敗を受け入れることの大切さを学級全体に広め、全員が気持ちよく学習に取り組めるようにする。チームの一体感を持たせるため「ファイトコール」を行うとともに、失敗してしまったときにお互いを励ます「励まし言葉」をクラス全体で共有することで、心理的不安のない状態で体育が行えるようにする。

５　研究主題との関わり

（１）研究主題について

〈研究主題〉

運動好きで、心も体もたくましい児童の育成

～資質・能力の３つの柱をバランスよく育む体育学習を目指して～

（２）研究の仮説

① 体育の授業において、子供の実態や課題をもとに、互いに教え合い、課題解決に向けた集団の関わり合いを重視した授業をデザインしていけば、運動の特性に応じた技能を身に付け、自己や集団の課題に応じた動きを工夫することができ、「運動好きで、心も体もたくましい児童」を育成することができるのではないか。

② 体育の授業において、児童の実態に応じた「認め合い、関わり合い」を重視すれば、仲間と協力して運動に親しむ態度が育まれ、「運動好きで、心も体もたくましい児童」を育成することができるのではないか。

③ 教科外体育の充実を図れば、仲間と共に協力し合い、「運動好きで、心も体もたくましい児童」を育成することができるのではないか。

（３）研究主題との関わり

【手立て１　基礎技能の定着のための工夫】

「静止したボールを打つ」ことに技能面の差が予想される。そのため、ティーボール用バット、輪ゴム

を巻いたバット、バットの先に2L ペットボトルをつけたバットなど、教具を工夫して心理的不安がない状態で打てるようにする。また、技能面の定着のためにレベルアップタイムとして、「ホームランダービー」「連続バッティング」を継続して行う。

第 4 時以降では、ボールを持たないときの動きが重要になる。そのため、投力によって相手との距離を調整することや、投げる人と受け取る人の間に入る中継者の 3 人が一直線になることを習得できるよう、レベルアップタイムとして「中継キャッチボール」を継続して行う。



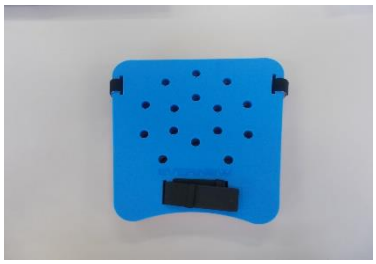
選べるバット



連続バッティングロープ



簡易グローブ



手で打てるウテチャン



手首をさげずに投げるためのペットボトル

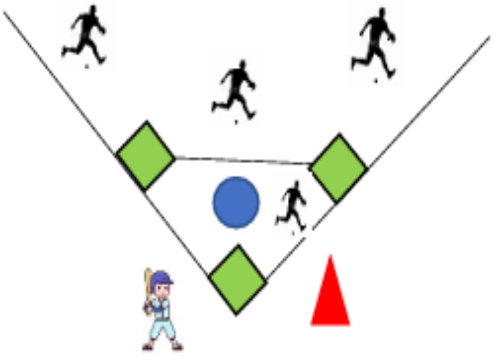
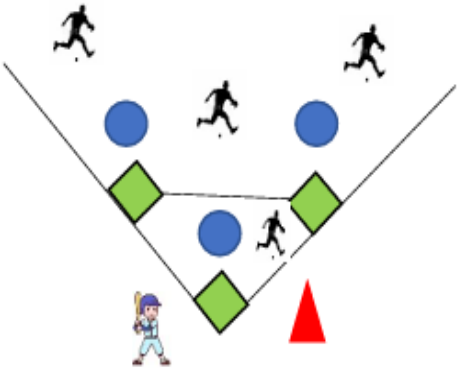


バドミントンラケット

【手立て２　チームで協力しなければできない課題、ルールの設定】

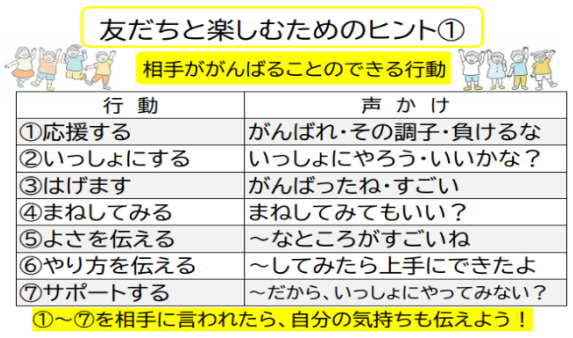
第３・４時は、アウトゾーンが１つで、捕球した場所からは移動できないルールを設定する。そのため捕球者以外がアウトゾーンに移動することで、ボールを持たない動きの習得を目指し、中継プレーの必要感を持たせる。第５時以降は、アウトゾーンを３つにすることで、近い場所でアウトをとるメインゲームを設定する。また、アウトゾーン３カ所をチームで自由に決められるようにすることで、どこならすぐにチームで中継しながらアウトゾーンまでつなげられるかを考えさせる。ボールの飛んだ位置と打者の走力を踏まえて、アウトゾーンまでボールをつなぐ流れがスムーズにできるよう、仲間とのかかわりに必然性を持たせる工夫を取り入れる。

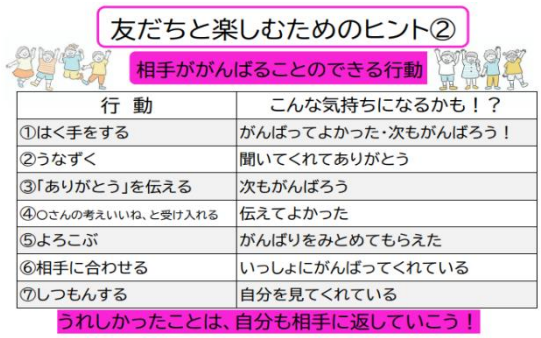
チーム課題を解決していくためのチーム練習や、話し合いの時間を設ける。話し合いでは、めあて（守備位置、中継場所)、振り返りを作戦ボードに書き込み、次時につながるようにする。

	第３・４時	第５～８時
フィールド	 ・・・アウトゾーン ・・・バットコーン	 ・・・アウトゾーン ・・・バットコーン
ルール	【攻撃】 ・ティーに置かれたボール（ウレタン）を打つ。 ・バット入れのコーンにバットを入れる。（１点） ・１つ進塁するごとに１点（最大３点） ・アウトコールがかかるまで走る。 ・アウトコールがかかるまでに踏んだベースの数が得点。 ・ランナーはつけない。 ・空振り、ファウルはもう一度。 【守備】 ・アウトゾーンは**１カ所、指定場所**。 ・アウトゾーンにボールと守備者１人を入れて「アウト」コールする。 ・ボールを捕球してアウトゾーンまでボールを連携して運ぶ。 ・ボールを捕球したら歩くことはできない。 ・アウトゾーンまで味方と中継しながらボールをつなぐ。 ・ノーバンで捕球→アウト	【攻撃】 ・ティーに置かれたボール（ウレタン）を打つ。 ・バット入れのコーンにバットを入れる。（１点） ・１つ進塁するごとに１点（最大３点） ・アウトコールがかかるまで走る。 ・アウトコールがかかるまでに踏んだベースの数が得点。 ・ランナーはつけない。 ・空振り、ファウルはもう一度。 【守備】 ・アウトゾーンは**３カ所、自由に決められる。** ・アウトゾーンにボールと守備者１人を入れて「アウト」コールする。 ・ボールを捕球してアウトゾーンまでボールを連携して運ぶ。 ・ボールを捕球したら歩くことはできない。 ・アウトゾーンまで味方と中継しながらボールをつなぐ。 ・ノーバンで捕球→アウト

【手立て３　友達の動きを見てよかったところを伝え合う。】

友達と協力しながら楽しくゲームに取り組めるように、「友達と楽しむためのヒント」を提示する。友達を応援する、よさを伝える、やり方を教えるなどの具体的な行動や声かけを示すことで、児童が自分にできる関わり方を選び、積極的に友達と関わることができるようにする。また、友達からの応援や称賛を通して互いのよさを認め合い、誰もが安心して意欲的にゲームを行えるようにする。

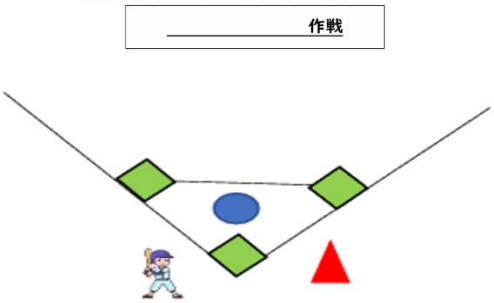




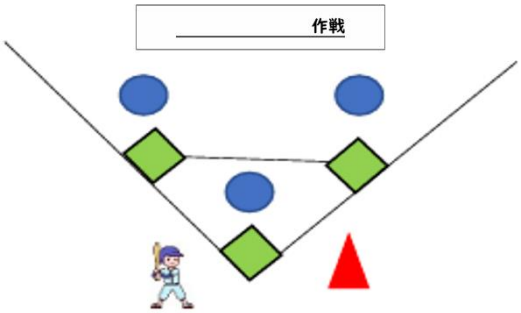
【手立て４　思考の視覚化】

守備の隊形やボールの動き、児童の位置を図で示し、作戦を視覚的に捉えられるようにする。前哨戦と大会の場面を比較しながら、アウトを取るための守備位置や動き方について考え、友達と考えを共有することで、チームの特徴やゲームの状況に応じた簡単な作戦を選んだり、工夫したりできるようにする。

前哨戦　守　自由に書くべし



飛束隊ベースボール大合戦　守　自由に書くべし



6　単元の目標

（1）打つ、捕る、投げるなどのボール操作と得点をとったり防いだりする動きによって、易しいゲームをできるようにする。〈知識及び技能〉

（2）規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。〈思考力、判断力、表現力等〉

（3）運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気をつけることができるようにする。〈学びに向かう力、人間性等〉

7　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 打球動作について知り、ボールをフェアグラウンド内に打つことができる。 ② 捕球動作について知り、向かってくるボールの正面に移動することができる。 ③ 投球動作について知り、相手の胸に向かってボールを投げることができる。 ④ ベースに向かって全力で走り、かけ抜けることができる。	① たくさん得点できるようにする作戦を選んでいる。 ② チームの課題を見つけ、考えたことを友達に伝えている。 ③ 打者に合わせた守備位置や作戦を選んでいる。	① ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 ② 仲間の考えや取り組みを認めようとしている。 ③ 使用した用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。

8　単元計画

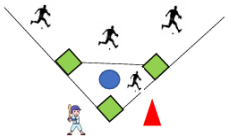
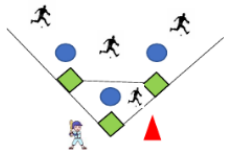
（1）　領域（ゲーム・ボール運動）の取り上げ方

運動/学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年
ゴール型ゲーム及びゴール型	ポートボール（７時間） タグラグビー（８時間） ラインサッカー（７時間）	ポートボール（７時間） ラインサッカー（７時間）	バスケットボール（７時間） タグラグビー（８時間）	バスケットボール（７時間） サッカー（７時間）
ネット型ゲーム及びネット型	プレルボール（７時間）		ソフトバレー（７時間）	
ベースボール型ゲーム及びベースボール型		ティーボール（８時間）		ソフトボール（７時間）

（2）　領域の内容（ベースボール型ゲーム・ベースボール型）と目指す動き

学年	内容	目指す動き
第４学年	ティーボール	・ボールをフェアグラウンド内に打つこと。 ・ベースに向かって全力で走り、かけ抜けること。 ・向かってくるボールの正面に移動すること。
第６学年	ソフトボール	・易しく投げられたボールをバットでフェアグラウンド内に打つこと。 ・打球方向に移動し、捕球すること。 ・捕球する相手に向かって投げること。 ・塁間を全力で走塁すること。 ・守備の隊形をとって得点を与えないようにすること。

（３）　指導と評価の計画（８時間扱い）　本時は○印　６／８時

時間	1	2	3	4	5	⑥	7	8
ねらい	○学習の進め方を知り、安全にティーボールを取り組もう。	○ティーボールの基本的な打ち方を知ろう。	○ボールの基本的な投げ方・捕り方を知ろう。	○アウトゾーンまでボールをつなげよう。	○たくさん得点が取れる作戦を考えよう。	○点をたくさん取られないための守備位置を考えよう。	○チームに合った作戦を考えよう。	○身につけた技能を生かして、ゲームに取り組もう。
指導内容	・学習の進め方、約束（安全面を含む）、 ・準備の仕方 ・場づくりの仕方 ・主運動につながる運動の仕方 ・学習カードの記入の仕方	・ボールの打つ時の正しい身体の使い方 ・ボールの飛ばし方	・捕球の仕方 ・投球の仕方 ・中継の仕方 ・走塁の仕方	・ボールを持たないときの動き ・捕球から送球までの動き	・たくさん点を取るための作戦の練り上げ ・話し合いの仕方	・守備位置の話し合い、選択 ・捕球からアウトゾーンまでのボールの運び方	・攻撃面・守備面における作戦の練り上げ	・これまで学び得た内容を生かした試合
学習過程	＜オリエンテーション＞ ３　単元の学習と本時のねらいを確認する。 ４　学習の仕方や進め方に見通しをもつ。 ・１時間の流れ ・用具の確認、準備の仕方、片付けの仕方、役割決め ・学習カードの使い方 ５　主運動につながる運動を行う。 ６　試しのゲームをする。 ７　片付け ８　振り返り （学習カード）	１　集合、整列、健康観察、挨拶をする。　２　準備運動をする。　３　主運動につながる運動　４　場づくり　５　ねらいの確認 ６　レベルアップタイム〈守備面〉２人ペア　キャッチボール（①ゴロ、フライキャッチ　②下投げ　③オーバースロー　④中継キャッチ） 〈打撃面〉２人ペア　連続バッティング、ホームランダービー ７　ルール確認 シミュレーション ホームランダービーゲーム ・１人１分間、ティーに置いてあるボールを打つ。 ・ボールは新聞紙ボールを使う。 ・５ｍラインに向かってボールを打つ。 ・ラインを超えた数の合計を競う。 ８　ホームランダービーゲーム	７　的当てゲーム ８　スローイングベースボールゲーム 【攻撃】 ・投げてベースを回る。相手がアウトゾーンにボールを入れたところまでに踏んだベースの数が得点。最大３点。 【守備】 ・アウトゾーンまでボールをつないで、ボールを入れる。 ・アウトゾーンは**１カ所、指定場所** ・ノーバンで捕球→アウト ・ボールを捕球したら歩くことはできない。	７　軍議・シミュレーション ８　前哨戦 【攻撃】 ・ティーに置かれたボールを打つ。 ・バット入れのコーンにバットを入れる。（１点） ・１つ進塁するごとに１点（最大３点） ・アウトゾーンにボールと人がたどりつくまで走る。 ・アウトコールがかかるまでに踏んだベースの数が得点。 ・ランナーはつけない。 ・空振り、ファウルはもう一度。 ・ボールは、自分で選んだものを使う。 ・打者一巡したらチェンジ。 【守備】 ・アウトゾーンは**１カ所、指定場所**。 ・アウトゾーンにボールと守備者１人を入れて「アウト」コールする。 ・ボールを捕球してアウトゾーンまでボールを連携して運ぶ。 ・ボールを捕球したら歩くことはできない。 ・アウトゾーンまで味方と中継でボールをつなげる。 ・ノーバンで捕球→アウト 	７　軍議・シミュレーション ８　飛東隊ベースボール大合戦 【攻撃】 ・ティーに置かれたボールを打つ。 ・バット入れのコーンにバットを入れる。（１点） ・１つ進塁するごとに１点（最大３点） ・アウトコールがかかるまで走る。 ・アウトコールがかかるまでに踏んだベースの数が得点。 ・ランナーはつけない。 ・空振り、ファウルはもう一度。 ・ボールは、自分で選んだものを使う。 ・打者一巡したらチェンジ。 【守備】 ・アウトゾーンは**３カ所、自由に決められる。** ・アウトゾーンにボールと守備者１人を入れて「アウト」コールする。 ・ボールを捕球してアウトゾーンまでボールを連携して運ぶ。 ・ボールを捕球したら歩くことはできない。 ・アウトゾーンまで味方と中継でボールをつなげる。 ・ノーバンで捕球→アウト 	９　片付け　　１０　本時のまとめ　　１１　学習カード振り返り　　１２　整理運動、挨拶		

評価計画								
知・技			④	③	①		②	
思・判・表					①	③		②
態	③	①					②	
方法	観察	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード
場面	4	8	8	6、8	6、8	6、7	7、8	8

9　本時の学習と指導（6／8）

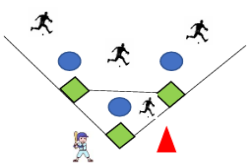
（1）ねらい

○打者に合わせた守備位置や作戦を選ぶことができるようにする。　＜思考力、判断力、表現力等＞

（2）準備

・バット　・ボール　・新聞ボール　・ベース　・簡易グローブ　・学習カード　・得点板
・教具　・提示資料　・ホワイトボード

（3）展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導　◆評価規準）
導入 7分	1　集合、整列、挨拶、健康観察をする。 2　準備運動をする。 3　主運動につながる運動をする。 ペットボトルスローイング 新聞紙スイング 4　場作り 5　本時のねらいの確認をする。 相手の得点を少なくするために、打者に合わせた守備位置を考えよう。	○素早く集合する。 ○服装を整えさせ、顔色や様子を確認し、気持ちを込めた挨拶ができるようにする。 ○ケガ防止のために、入念に行わせる。 ○体全体を使う、足先まで伸ばすことを意識させる。 ○主運動につながるように、動きのポイントを確認しながら取り組めるよう促す。 ○スムーズに準備ができるようにする。 ○前時の学習から、本時のねらいにつながる課題を児童から引き出し、設定できるようにする。
展開 ① 8分	6　レベルアップタイムをする。 ・既習の内容に取り組む。 キャッチボール 中継キャッチボール 連続バッティング ホームランダービー	○慣れにより既習の動きが雑にならないように丁寧に取り組めるようにする。 ○相手の胸に向かってボールを投げるよう指導する。 ○中継では、最初に投げる人から最後まで一直線の位置で待つよう意識する。 ○児童の投力には差があることを考慮し、相手によって近づいたり遠ざかったりするよう支援する。 ○打つ時は、腕だけでなく腰を使って体全体でバットを振ることを意識できるようにする。
展開 ② 25分	7　作戦タイムをする。 8　「飛東隊ベースボール大合戦」をする。 【攻撃】 ・ティーに置かれたボールを打つ。 ・バット入れのコーンにバットを入れる。（1点） ・1つ進塁するごとに1点（最大3点） ・アウトコールがかかるまで走る。 ・アウトコールがかかるまでに踏んだベースの数が得点。 ・ランナーはつけない。 ・空振り、ファウルはもう一度。 ・ボールは、自分で選んだものを使う。 ・打者一巡したらチェンジ。 【守備】 ・アウトゾーンは**3カ所、自由に決められる。** ・アウトゾーンにボールと守備者1人を入れて「アウト」コールする。 ・ボールを捕球してアウトゾーンまでボールを連携して運ぶ。 ・ボールを捕球したら歩くことはできない。 ・アウトゾーンまで味方と中継でボールをつなげる。 ・ノーバンで捕球→アウト 	○ホワイトボードを使って作戦を記入する。 ○守備位置や作戦が決まったチームは、実演しながら確認する。 ○話し合いを観察し、本時のねらいを意識して作戦を選択していることを称賛し、その様子を価値付けする。 ○作戦や役割がうまくいかなかったチームに積極的に関わり、作戦カードの中から、本時の課題を意識して作戦を選べるように支援する。 ◆打者に合わせた守備位置や作戦を選んでいる。 （観察・学習カード）【思考・判断・表現】 △努力を要すると判断される状況（C）の児童への指導と手だて ・作戦カードに記述がされていないチームには、前時までの作戦ボードを見せながら改善点が見つけられるようにする。 ・練習を通して作戦や役割を一緒に確認する。 ◎十分に満足できると判断される状況（A）の児童の具体的な姿 ・前時の課題を踏まえて新たな課題を見つけ、解決するために自分や友達の守備位置や中継距離を具体的に考え、実践することができている。 ○打者に合わせた守備位置や中継ができている児童や指示ができている児童を称賛したり、戸惑っている児童には助言したりする。

整理 ５分	９　用具の片付けをする。	○安全に留意して素早く、協力して片付けをする。
	１０　本時のまとめをする。	○チームトークを行い、できたことや課題点を共有するように声かけする。 ○全体でも共有する。
	１１　振り返りをする。	○本時の課題を確認し、個人で振り返りを行う。 ○新たにできたことや気付きを文章でまとめる。 ○ねらいに沿った振り返りをしている児童の考えや動きを全体で共有する。
	11　整理運動をする。	○呼吸を整えながら本時で良く動かした部位を重点的にほぐすように助言する。
	12　健康観察、挨拶をする。	○元気よく挨拶して授業が終えられるようにする。



飛東隊ベースボール大合戦

～勝利へみちびく作戦で本じんをかけぬけろ～

４年（　　）

隊の名前（　　隊）

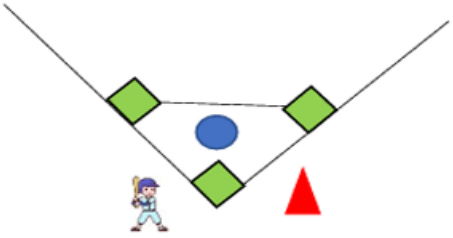
隊長→	軍医→	軍師→	鼓舞隊→
この隊はまかせたぞ！ 目指せ天下の大将軍！？	隊のみんなの体調、安全をよろしくな！	勝利へみちびく作戦はいかに！？	声出しでもりあげろ！

◎隊のめあて

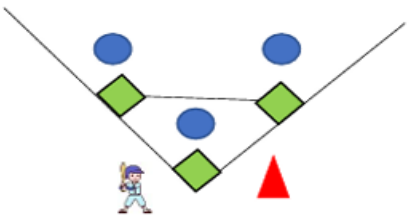
スターティングメンバー

打順	打者名	得点記録			
1		点	点	点	点
2		点	点	点	点
3		点	点	点	点
4		点	点	点	点

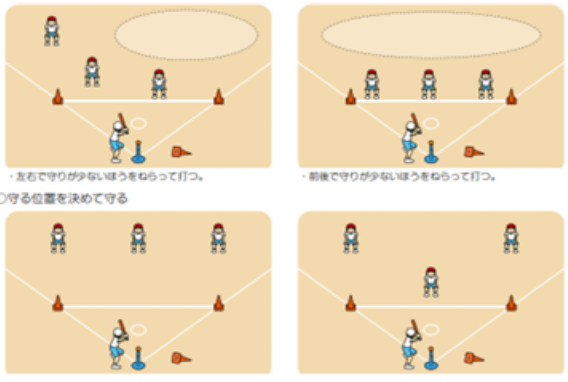
前哨戦図



大合戦図



作戦の例



◎よくできた　　○できた　　△もう少し

	日付	めあて たっせい	ルールが 守れた	協力できた	準備・片付け できた	ふりかえり 自分が大切だと思ったこと・気づきを書きましょう。
1	/					
2	/					
3	/					
4	/					
5	/					
6	/					
7	/					
8	/					
ティーボールを通しての感想						